

平成26年度第1回富里市廃棄物減量等推進審議会会議録

○日 時 平成26年7月31日（木）13時30分～15時00分

○場 所 富里市役所本庁舎3階第3会議室

○出席者 [審議会委員]

大道会長、高谷副会長、岩井委員、荒野委員、沖田委員
野牧委員、相川委員

[事務局]

高岡部長、森重課長、飯田副主幹、藤崎主査補、梅野主事

[コンサルタント（中外テクノス株式会社）]

松岡、石津、河村

○欠席者 [審議会委員]

森井委員、藤崎委員

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報告事項

(1) ごみ減量ワークショップの開催結果について

4 議題

(1) ごみ減量等の目標値の設定について

(2) ごみ減量等に係る施策について

(3) その他

5 その他

6 閉会

1 開 会

2 会長あいさつ

会 長 皆さん、こんにちは。先日はワークショップに参加していただきありがとうございます。今日のごみ減量等の目標値と基本計画の素案についての活発な発言を期待しております。よろしくお願いいたします。

3 報告事項

(1) ごみ減量ワークショップの開催結果について

事務局より報告

4 議題

(1) ごみ減量等の目標値の設定について

事務局の資料説明についての質問、意見と回答の概要

会 長 可燃ごみ量によって予測した数値が、平成 36 年度までの推計では、3.8%の増加になるという説明でした。富里市の家庭系・事業系のごみの目標は、両方マイナス 5%です。

将来予測の総量は、家庭系ごみは 667g、事業系ごみは 291g で、両方合わせて 958g です。一方、目標値は家庭系ごみが 603g、事業系ごみは 263g で、合わせると 866g と、予測と目標値の開きが大きいです。この件について説明していただけますか。

事 務 局 平成 36 年度の数値について、単純にこのまま何もせずに現状が続いた場合、家庭系ごみは 667.4g 排出される見込みです。目標年度である平成 36 年度は、基本としている平成 25 年度実績 634.9g のマイナス 5%の数値としております。方法としては、単純予測 667.4g からのマイナス 5%という案もありますが、今回は平成 25 年度を基本とし、ごみ減量の効果を想定した目標として高く設定しています。

会 長 マイナス 5%という数字が小さく、頑張ればもっと減らせるのではないかという提案と、このマイナス 5%でやってみたらどうかという提案があると思います。実際に、平成 24 年度から平成 25 年度にかけて家庭ごみは 692g から 634g へと 60g 近く減っています。実績としては、マイナス 5%だったら達成可能かなという意味合いもあるということですね。

事務局 はい。単純予測だと家庭系ごみは 667.4g となりますので、実際は 64g ぐらい減らす努力が必要になりますが、目標としては達成が可能かと思われます。

会 長 景気がよくなっていけば、たくさん物を買ってごみが増加するということがあり得ます。ワークショップでも減量に対する関心が高く、いろいろな意見が出ました。事業系ごみに関わる委員の方もいらっしゃると思いますが、家庭ごみに関わらず、このマイナス 5%という設定はいかがでしょうか。事業系ごみは平成 24・25 年度と増えていますね。

事務局 事業系ごみは景気による事業活動の変動に伴って変化するので、予測しにくい部分ではあります。

会 長 前回までの話でも、事業系ごみもリサイクルにはかなり努力をされていて、排出量を減らすように考えておられるということをお聞きしました。

事務局ご提案のマイナス 5%でよろしいですか。質問、意見が有りましたらお願いします。

委 員 数値で何%と言われるとちょっと難しいですね。前回計画においては、基準年の平成 17 年から 5 年ぐらいで達成できていないという、かなり厳しい数値だったと思う。それを考えると、単純に数値がこのように減っていくかということ、なかなか難しいような気もしないでもない。その辺はいかがですか。

事務局 減量目標ということになりますので、プラス何%とは設定しづらい部分です。この後の議題にもなっていますが、市民の皆さまや事業所の皆さまにもご協力いただき、各種施策によってごみを減らす 1 つの目安として数値の設定はしておきたいため、事務局案としてマイナス 5%を提案させていただいて

いるところですよ。

会 長 ご発言を願います。

委 員 マイナス5%という数字が本当にいいのかどうか難しいですね。施策が具体的に推進できるかが重要になると思います。

会 長 国や千葉県の目標値が5%削減ですので、それに合わせるという考え方もあったのだと思います。
富里市の人口の伸びは、どう予測していますか。

事務局 ほぼ横ばいという推計を立てております。

会 長 そうすると、人口が増えることでごみの排出量が増えるという予測ではないということですね。

事務局 国や県もマイナス5%という目標になっていますので、それ以下の目標は、なかなか設定しづらい数値ではございます。

会 長 施策をもとに更に減量を目指すという意味もあってマイナス5%というご提案ですが、よろしいですか。意見を伺います。

委 員 その5%というのがよく分からないのですが。

会 長 あくまでもこれは目安の数字で、その数字に向けて市民と行政の協働で頑張りましょうということだと思います。

事務局 期限を設けて、ごみ減量活動の効果を評価するためには、効果を期待する数字目標を設定する必要があります。マイナス10%、マイナス15%では、現在までの推移から達成が厳しすぎる数値となります。目標としては、国や県、実態と合わせた、到達可能と考えられるマイナス5%を設定するという事です。基本的には10年間の計画ですので、もちろん中間評価も実施いたします。

今回提案のマイナス5%は、目標到達が決して無理な数字ではないと思われま。仮に、今後の中間評価で市民の皆さんの協力によりマイナス7%到達となれば、その時点で目標数値を検討するという事もあり得ると思ひます。そういった意

気込みで減量活動を推進して参りたいと思いますのでよろしくをお願いします。

会 長 アメリカでは 10 年の目標を強気で立てて、単年度、3 年あるいは 5 年で中間評価を入れて、その動向を見ながら最終目標の見直しを決めています。生活習慣病などのメタボリックシンドローム対策等がその代表です。ですから、10 年間の目標として取りあえずマイナス 5% を掲げて、単年度等の評価も加えて行うということですね。

事務局 はい。単年度にするか、3 年、5 年にするかは今後の課題ですが、いずれ評価をした中で家庭系・事業系それぞれの数字に傾向や違いが出てくる可能性もあります。その時点でまた設定をしたいと思います。

会 長 数値目標については、5% の減量。具体的には、家庭ごみで 1 人 1 日当たり 31.7 グラム、事業系ごみで 1 人 1 日当たり 13.9 グラムの減量と設定することで了承してよろしいですね。

委 員 はい。(全員)

(2) ごみ減量等に係る施策について

事務局より資料説明の後

会 長 皆さんに討議いただくことが 2 つございます。1 つはごみ減量のスローガンについて、2 番目にごみ減量の基本計画です。ごみ減量のスローガンについては、事務局から 4 点提案していただきました。これについて質問、提案、意見ををお願いします。

委 員 スローガンはこういったものが一番いいのでしょうか、昔は皆の意識を高めるには良かったと思うのですが、もう少し分かりやすくというか、具体的にはできないでしょうか。
あまりにも立派すぎて理解しにくいです。

会 長 もう少し時間をかけ、委員からの提案も含めて検討するか、このスローガン自体をいじってもっとよくしようということでしょうか。ご自身の意見はありませんか。

委員 いえ、これ以上の言葉はもうないと思います。本当に素晴らしいスローガンです。

会長 私も考えたのですが、例えば「富里 環境にやさしい、資源を生かすまち」など、富里を先に言うことで強調する表現にしてはいかがでしょうか。

意見があつたら何でも結構です。ここで決めるのではないですね。

事務局 意見をいただいて、最終的に決めたいと思います。

会長 分かりました。後から事務局に提案していただくということは可能でしょうか。

事務局 はい。それでは8月末までに事務局へ連絡いただければ、調整した案を次回の審議会で提案したいと思いますので、ご協力をお願いします。

会長 次に、施策の具体的な内容についてです。資料表記の中に「新規」と「継続」と「検討」に分かれています。「新規」と「継続」は実施する、「検討」はこれから具体化するかどうか考えるということですね。

事務局 計画期間の10年間で検討を続けていくという内容です。

会長 「発生抑制の取り組みの強化」において、意見はありますでしょうか。ここをもっと重点化したいとか、こっちが重点のほうがいいというような意見がありましたらお願いします。

委員 過去に家庭系ごみの分析をした際に、資源化できるものが17%以上含まれていたということがありました。減量にあたって、家庭から出るごみの中の資源化できるものを徹底的に分別する方法はないものでしょうか。例えば、手紙の封筒や包装紙について、大きいものだと資源ごみの日に新聞などと一緒に出せますが、ちょっとした箱を包んだ紙などは、つい可燃ごみの日に一緒に出してしまう。そういったごみを別に回収するという考え方はどうでしょうか。アパートなどに住んでいる若い方々についても、家庭の中で細かい分別ができるような施策を

検討すれば、可燃ごみに含まれている資源が分別に行くのではないかと考えます。また、家庭から出る紙を収集するのは月に何回かぐらいだと思いますので、市から1年に12袋を配布するということが推奨するという考え方もあると思います。要するに、今まで燃されていた資源を簡単に分別する方法を考えてはどうでしょうか。

それから、コンポストについては助成金まで出していますが、全市の中でどのぐらいの利用率があるのでしょうか。私も買いましたが、肥料の使い道がなく、今は使っていません。

最近アパートが増えているため、コンポストを利用できない家庭もあります。コンポストに助成金まで出すのであれば、紙を分別する紙袋を配布してもいいのではないのでしょうか。新しい取り組み、考え方としてどうでしょうか。

会 長 この件について何か意見はございますか。

委 員 ごみの中から紙を完全に分別してリサイクルするということが、封筒については、仕組みは違いますが、富里市では以前から取り組んでいます。

集団回収においては、パッケージペーパーという名前で行っていて、登録している団体の皆さんに、集団回収の日に出してもらっています。全市で実施するにはまた別の工夫が必要と思いますが、この取り組みが広がればいいと思います。

会 長 封筒だけではなく、裏が白いような紙も新聞紙に混ぜて出せるのですか。

委 員 現状は大丈夫です。封筒はパッケージペーパーなので雑誌と一緒に出せば大丈夫です。新聞とチラシと一緒に出して大丈夫です。

委 員 個人情報などが入っていて混ぜられない文書については、別のところでシュレッダーにかけておき、細かいごみと一緒に出してしまえばもっと楽に利用できるのではないかと思います。

委 員 そうですね。シュレッダーを持っている家庭もありますので、シュレッダーにかけたものを袋に入れて出すということもあります。あとは、出す側で燃えるごみにするリサイクルにす

るか考えてもらえればと思います。

会 長 事務局から今の件について説明をお願いします。

事 務 局 家庭ごみの中で、可燃ごみが排出量に占める割合が多いのはご存じかと思います。前年度に実施したごみ組成調査の結果、本市の場合は未開封の食べ残しや賞味期限切れのごみの量が多かったので、1つは食べ残しの削減について重点施策として取り組んでいこうという考えです。

また、紙の件につきましては、資源化できるものが可燃ごみに混ざっており、機密の部分については個人の判断による場所だと思いましたが、実際にはステーションで古紙の回収は行っていないので、資源回収運動にご協力いただくか、直接市のクリーンセンターに搬入していただいて資源化をするという状況です。資源回収運動への協力について、さらに情報を発信していくということも1つになるかと思えます。

また、可燃ごみの中の不適物を取り除いて量を減らすほか、未開封以外の厨芥類も多いので、生ごみの水切りの推進も効果があると思えます。

まず皆さまのご家庭でできるところから取り組んでもらい、紙の回収については、今後市が検討していかなければならないと感じています。

会 長 コンポストについて意見はございますか。

委 員 生ごみの堆肥化を導入する際、コンポスト容器があると助かるのでみんな買うのですが、できた堆肥をどうしたらいいのかということが問題になります。継続性がないので対策が必要だと思います。

例えば市で生ごみを収集し堆肥化するといった取り組みはどうでしょうか。そういう方法を富里市でも考えてもいいかと思えます。

会 長 作った堆肥が全部同じ内容だったらいいのですが、質が違うため、品質保障の面での問題があります。また、たくさん出来過ぎてしまって使いきれないため、堆肥化を止めたという事例もあります。

ステーションのようなものがあり、堆肥をそこに置いておけ

ば、欲しい人が持っていけるという仕組みがあればいいかと思
います。あるいは、月に1回、2ヶ月か半年に一度、何かのイ
ベントに合わせて持って帰っていただくことも可能かと思
います。園芸の苗などを売っているところに持ち込むと不具合が
あるので、市とコンポストで堆肥を作った人で、上手く再利用
できる仕組みがあってもいいと思います。NPO 法人などでそう
いう仕組みはありますか。

事務局 富里市内ではありません。

会長 千葉市でもコンポスト容器がたくさん売れましたが、できた
堆肥を誰も使ってくれないのでやめたという人が結構いたそ
うです。せっかく作ったのですから、使えるところにうまくつ
なが術がないのかなと思います。

事務局 市として生産者と消費者の橋渡しができないかというこ
とでしょうか。

会長 そうです。こういうところにステーションがあるとか、コミ
ュニティセンターに場所を設けて期限付きで置くとか、そうい
うことをやっているうちに NPO 法人等とのつながりができて
きてスムーズに動いていくのかなという気がします。せっかく
熱心に堆肥化をされているので、橋渡しがあればと思います。
コンサルタントさん、いかがですか。今までの経験でそうい
う話がありますか。

コンサルタント 堆肥の使い道は非常に難しい問題です。単純に、減量化とい
う視点で堆肥化をしている自治体もあり、水分が減って収集も
簡単になり、焼却量も減るので、使い道に困ったときは可燃ご
みで出してくださいという話をしているところもあります。

堆肥として使えればもちろんベストですが、実際は安定した
性状でないと農家さんはなかなか受け取ってくれません。家庭
向けの肥料であれば使えると思います。

事務局 電気式生ごみ処理機は乾燥させるタイプで、減量効果は高い
と思います。また、今言われた通り、塩分などの問題で、生
産者、特に農家さんが使うということは、見通し的にはまだ
難しい部分があると思います。

委員 堆肥にしても、容器に入れるものはみんなばらばらですね。

委員 わが家はコンポストではなくて四角い箱（密封バケツ）のようなもので堆肥化しています。

EMを長年して、野菜等を作っているの焔に利用していますが、非常に臭いがします。子どもから「臭いから嫌だ」とか言われてしまうこともあります。

1日たてば臭いは消えますし、EMが良いことは分かっていますが、その臭いに対しては少し抵抗感があります。日吉台でしてくれた友人もいましたが、ご主人が臭いが駄目だといって止めたと聞いています。もう少し臭いがない方法でリサイクルができればと感じています。

会長 他の市役所で活用しているのを見てきましたが、行政としては、勧めることはできても、それをやるかやらないか、あるいは続けるかどうかということについては、そのご家庭の判断になるかと思います。

委員 広い敷地があって離れた場所に捨てられる、焔があって穴を掘って埋められる等の対応ができないと、長く継続することは難しいと自分がやっていると感じます。ぬかみその匂いという人もいますが、初めてかいた方はびっくりしたり、実際に液を取っているだけでハエが寄ってきたりするので、臭いの問題は非常に難しいと思います。

会長 「分別、適正処理・処分の推進」で意見をお願いします。
紙ごみ分別の推進について、「混入しやすい」の後に「リサイクル可能な紙類について」という表現があるのですが、もう少し分かりやすい説明があればカッコ書きなどで加えていただきたいと思います。先ほども、封筒や裏の白いコピー用紙、片面刷りの折り込みチラシの話がありましたので、そういった説明があれば分かりやすいかと思います。

「啓発活動の継続・拡充」で「保護者への啓発」とありますが、これは学校からの学びの持ち帰りで、ご両親やおじいちゃん、おばあちゃんに伝えてほしいという意味ですね。

事務局 はい。子どもからご家族の方へ、という取り組みの1つです。

会 長 学校で使えるようなステッカーやツールのなものについての取り組みをされたことはあるのですか。

事務局 出前講座を実施した際に保護者の方へ渡してもらうよう子ども達にエコバックを持ち帰ってもらいました。そういった形での啓発、伝達を子どもにお願いして減量につなげていただくという取り組みは行っています。

会 長 情報提供というところで、市のホームページに関してはいかがですか。「継続」としてもっと強化しましょうということですね。

事務局 はい。

会 長 最後に「市民、事業者、行政の協働による取り組みの発展」で「エコショップの認定制度」が重点となっていますが、ゴミゼロやアダプトプログラム、ポイ捨てナイナイキャンペーンなどは、特に「重点」でなくても今後も続いていくという意味で理解してよろしいですね。

事務局 これらの取り組みは、どちらかといえば美化の部分が強いので、ごみの減量についてはエコショップの認定制度が「重点施策」となっております。

会 長 施策について、後で気づいたこと、質問、提案、意見がありましたら、事務局まで連絡してください。

(3) その他

事務局より一般廃棄物処理基本計画の素案について説明

5 その他

事務局 次回の審議会は10月頃の開催を予定しています。
また、スローガンと施策の部分で何かご意見、ご提案があれば、事務局まで連絡をお願いします。

6 閉会